



3年生の編集作業の様子



学生：アイデア⇄久松准教授：アドバイス



資料には単語、文法、会話、ガイドブックも

CASE 5

毎年、フランス語とフランス文化に関して調べた情報を、一冊の本にまとめて出版する活動を行っています。実際に学生自らが内容を企画し、出版社に売りこみ、執筆する体験ができると同時に、出版の責任と売り上げによって社会評価も受けられます。「学生が本を書き、本を売る」という過程を通して、大学で得た語学力と商学が実践できます。

嶋田陽介／原 伸天(商学部 2年)
Yosuke Shimada /Nobutaka Hara

「読む」「立場から」 「書く」「売る」現場へ

第2外国語を学ぶ目的

将

来のため、就職活動のため、留学のため、知的興味、あるいは外国の人と話したいという素朴な動機など、それぞれ人それぞれといえます。

一般的に、大学生活は短いと言われています。入学した時は無目的で漠然としていても、いずれ優先して学びたいことができきます。語学への態度も自分なりに決めていかなければなりません。商学部にはそのきっかけを与えてくれる「出版活動を通して商学の知識の実践」があります。無目的だった語学に「商学の実践」という目標ができます。

売れる本はどう作るか

商学部で主に学ぶのは、「ものを市場に出す」ことです。誰に、何を、いつ、どこで、どのようにして売るのが考えます。これを出版に用いるならば、誰が、何のために、いつどこで読み、どのようにして読まれるかを考える、ということ。そこで学生は読み手の立場になって考え、どんな事を、どのようにして伝えるかを選択しなければなりません。

ここでは、フランス語に関する本を製作しますが、どんなタイプの本にするかだけでも選択肢は数多くあり、例えば文法書、単語帳、フランス語の検定試験対策本、または旅行のガイド



実際に出版された「でる順 仏検単語集」

出版の現場でのスケジュール

具体的にまず2年生(活動1年目)は、準備段階としてフランス語の語学力向上に努めます。出版にあたっては、より正確な語学力が必要となるからです。フランス語の文章をグループで細かく文法から読み解きながら学生一人ひとりが解釈を述べ、互いに指摘し合います。

活動はあくまで学生が主体となり、久松先生からはアドバイスや補足があるくらいですが、時にはフランスの面白い話に学生の興味が引き立てられることもあります。

出版に関するアイデアは、2年生の後半から3年生の初めにかけて出し合います。アイデアを絞り込み、実際に具体化したい企画を組み立てていきます。

その後、まとめた企画を出版社にプレゼンテーション。採用されれば、学生は先生の指導と監修のもと、執筆に取りかかります。

具体的な期間の目安は、企画作成に約2ヶ月、原稿執筆に約1年3ヶ月、印刷に約4ヶ月かかります。

2009年6月現在、この活動を通じて3冊の企画が採用され、今も出版に向けた作業が行われています。

活動で得られたもの そして印税は誰に

本の売上は、売れた冊数によって具体的にわかります。したがって、それはより客観的で確かな評価となって学生に与えられます。

過去、この活動の成果として出版した本の一つに『データ本位でる順仏検単語集 5級〜2級準備レベル』(駿河台出版社)がありますが、これは現在、第7刷まで印刷されています。1回の刷り部数は2千から3千冊なので、およそ1万8千冊が世に出た計算になります。学生たちは自身の行動と努力に対して、売上という社会評価が得られたでしょう。(久松先生)

また、売上に対する印税については、「努力の当然の対価として、印税を学生に還元しています。なぜなら『仕事と責任を果たすことでお金を得る』その当たり前を学生に意識させ、責任感を持つてもらったからです」(久松先生)となっていて、大勢に情報を与える本を扱うだけに、出版にあたっては学生に高い責任意識を求めています。

久松先生は、「その責任を果たすには何をしたらいいのか、自身で見つけていかなければなりません。しかし、そうした試行錯誤の結果、私が思いもなかったアイデアが出てくることもあります」と楽しみにされています。「目標から課題を立て、達成を目指す力」それがこの活動の軸になっています。

VOICE OF STUDENTS



社会での責任を体験できました。

この出版過程で学んだことは責任感です。出版社との協同企画では、自分の仕事に自覚が必要でした。諦めずに行ってきたのはさまざまな人のサポートがあったから。その期待に応えるよう、全力で責任を全うする大切さを学びました。差別化を図るアイデアがなかなか生まれず、スランプにもなりました。修正が入り、作った原稿がパーになったときはつらかったです。しかし、原稿が出来上がるたびに達成感を味わえました。商学部にはあらゆるフィールドで活躍できる環境があります。やる気と情熱で、新しいことにもっと挑戦して行きたいと思います。

佐藤 舞 (商学部 4年)